

北部病院だより 第128号(2019.2)

Showa University Northern Yokohama Hospital

- 【巻頭言】 看護部より
- 【TOPICS】 副鼻腔炎
- 【TOPICS】 ロビーコンサートのご案内
- 【TOPICS】 がんサロンのご案内
- 【患者さんからのご意見・ご要望】
- 【診療統計】
- 【医師の配属・異動・退職】
- 【TOPICS】 キャンドルサービス開催報告
- 【編集後記】



昭和大学
横浜市北部病院

90th
SHOWA University
至誠一貫 Since 1928

巻頭言 看護部より

今年は暖冬といわれていましたが、寒さの厳しい日が続いています。空気の乾燥したこの時期には、インフルエンザなどの感染症が流行しやすい環境となります。患者さんやご家族の皆さまだけでなく、私共病院職員もうがいや手洗い・マスクの着用などの予防策を正しく実践して、大流行とならないようご協力をお願いします。

さて、今回は看護部のご挨拶をさせていただく機会を頂きありがとうございます。

当院看護部には、2019年1月現在、711名（内訳：女性看護師611名、男性看護師53名、助産師47名）の看護職員が在籍し、専門看護師2名、認定看護師20名を擁する大所

帯です。看護職員は、部署の管理に責任を持つ師長と現場の看護実践に責任を持つ係長を中心とした23の看護単位（部署）に所属し、日夜、患者さんに「最良の結果をもたらすために最善を尽くす」の看護理念に基づき、安全で安心のできる看護の提供に努力しています。同時に、病院理念である「患者さんの信頼に応える」ために、チーム医療の推進に努力しています。当院のチーム医療とは、入院患者さんを中心とした病棟医療チーム、外来患者さんを中心とした外来医療チーム、そして、組織横断的に専門領域（医療安全・感染管理・褥瘡予防・栄養・緩和ケア・メンタルヘルスなど）を中心に患者さんをサポートする組織横断チーム等があります。これらの医療チームでは、各チーム内で多職種が情報を共有し、協働し、必要に応じて医療チーム同士が連携するなどの実践活動を通して、患者さんにより質の高い医療・ケアを提供することを目指しています。組織横断チームには専門看護師や認定看護師がメンバーとして所属し、それぞれの専門性を最大限に発揮しながら患者さんのケアを行うことで、患者さんが受けるケアの質を保証し、同時に看護職員への教育的役割をも担っています。

また、2013年から退院調整部門の活動を開始し、2015年から患者支援室としてPFM(Patient Flow Management)を導入しました。そして、2017年から患者サポートセンターに、2018年からは総合サポートセンターに属し、入院前から地域連携、在宅支援を視野に入れた活動を展開しています。特に、昨年からは病棟ごとに退院支援担当職員を配置し、包括的退院支援ができるよう活動を強化しました。患者さんやご家族から頂くご意見や要望に寄り添いながら、今後は地域・在宅医療を支えて頂いている医療スタッフの皆さんと更なる連携強化を図り、多職種が協働することで患者さんにとって最適な支援ができることを目指したいと考えています。

2019年5月には平成が終了し、新元号元年となります。歴史の節目であり変化の1年とも言えそうです。また、2025年に迎える世界中のどの国も未だ経験したことのない「超・超高齢化社会」。今後の社会情勢の変化の中で、北部病院がどのような役割を担っていくのかを意識しながら、スタッフ教育や人材育成を強化し、患者さんはもちろん、地域に貢献できる病院・看護部であるよう更なる努力をしていきたいと考えております。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



看護部
立川 京子 部長



TOPICS 副鼻腔炎

鼻の周囲には頬つぺた、目の間、おでこなどに副鼻腔という空洞があります。副鼻腔は骨に囲まれた空間で鼻と小さな孔で繋がっており換気をしています。この副鼻腔に炎症が起こるのが副鼻腔炎です。副鼻腔炎には色々分類があり、風邪などの急性炎症後に起こる急性副鼻腔炎。上あごの歯の根っこからの炎症が波及して起こる歯性上顎洞炎。副鼻腔にカビが住み着いてしまう副鼻腔真菌症。3か月以上炎症が遷延してしまうと慢性副鼻腔炎となります。



耳鼻咽喉科

油井 健史 講師

症状は鼻水、鼻づまり、鼻水がのどに回る、頭痛、顔面の痛みなど様々です。鼻水がのどに回る後鼻漏によりのどの刺激で咳が続いたり、鼻づまりにより嗅覚障害を引き起こしたり、いびき・睡眠障害の一因ともなるため放置すれば食事がおいしくなくなる、昼間の眠気で仕事の集中力を欠くなど著しく生活の質を落とすことになりかねません。

副鼻腔炎の詳細な評価のためにはCT検査を行います。急性副鼻腔炎は片側性の事が殆どです。感冒後に膿のような鼻水、頬つぺたの痛みなどを伴いCT検査で片側性の陰影を認めれば急性副鼻腔炎が疑われます。歯性上顎洞炎も片側性の病変で、CT検査で上顎歯の歯根から上顎洞に陰影が続いていれば歯性上顎洞炎を疑います。片側性陰影で副鼻腔内に石灰化と言われる白い影を認めれば、副鼻腔真菌症を疑います。粘っこい鼻水、後鼻漏などの症状が長く続き両側性に陰影を認めれば慢性副鼻腔炎が疑われます。鼻内の診察を行うと粘膜がブヨブヨに腫れた鼻茸を認めることがあります。

治療は、急性副鼻腔炎には抗生物質、去痰剤などの内服治療、鼻の局所処置を行います。酷い場合には点滴治療を行ったり、鼻内から太い針を上顎洞に刺して膿を抜いてやったり洗浄したりして炎症を抑えていきます。歯性上顎洞炎の場合は歯科治療を先行して行ってもらうこともあります。副鼻腔真菌症は薬が効きにくいので最初から手術治療をお勧めします。慢性副鼻腔炎に対してはマクロライド系の抗生物質を常用量の半分の量で長期に内服してもらい炎症を改善していきます。これらの副鼻腔炎に対し薬での保存的治療で改善しない場合は手術治療を行います。昔は局所麻酔で歯齦部を切開し、頬つぺたの肉をめくって頬つぺたの骨に穴をあけて、そこから副鼻腔の粘膜を根こそぎ取り除く手術を行っておりました。昔手術を受けた方は大変な経験をされたことと思います。現在では内視鏡を用いて鼻内から手術を行っています。副鼻腔は薄い骨で蜂巢状に仕切られていますが、その骨を取り除き、大きな一つの空洞にして換気を良くしてやると炎症で腫れていた粘膜がだんだん引いてきて正常に戻ってきます。全身麻酔で行いますが患者さんへの負担はだいぶ軽く済むようになりました。

しかし、近年は成人発症の気管支喘息に合併して起こる好酸球性副鼻腔炎が増えてきています。通常の慢性副鼻腔炎と異なり、マクロライド治療に抵抗性で、手術しても再発する割合が高く難治性です。ステロイドホルモン剤が良く効きますが、副作用が多いため常用することは難しく厄介です。

粘っこい鼻水が続き、鼻水がのどに回る症状が続く方は是非耳鼻咽喉科医に相談して下さい。

TOPICS ロビーコンサートのご案内



ロビーコンサートを開催いたします。多くの方にお越しいただけることをお待ちしております。

日時：平成31年2月22日（金）19時00分～

場所：中央棟1階 会計前ロビー

演奏者：洗足学園音楽大学（門倉ゼミ 学生の皆様）



平成29年2月に学校法人洗足学園と学校法人昭和大学が包括連携協定を締結。

当院では平成30年2月に初めてロビーコンサートを実施し、毎回ご好評頂いております。

今回は門倉ゼミより、学内外でのコンサート・イベントやTVCM等にも出演をしているコーラス隊がロビーコンサートにやってきます。

※ 日程及び内容が変更となる場合がございます。予めご了承ください。



TOPICS がんサロンのご案内



日時：平成31年2月21日（木）14:00～16:00

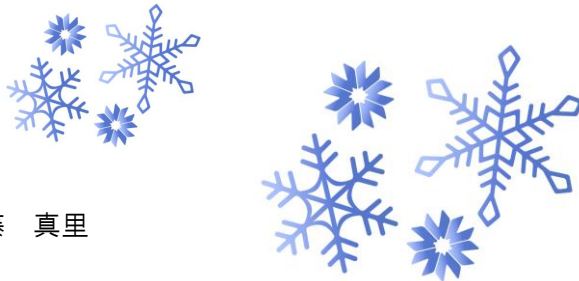
場所：当院 中央棟9階 大会議室

テーマ：がん治療と生活シリーズ

7. がんの痛みどめと緩和ケア、緩和ケア病棟

講演者：緩和ケアチーム薬剤師 徳永 愛美

がん相談支援センター/緩和ケア認定看護師 加藤 真里



皆さまのご参加をお待ちしております。

がん相談支援センターについて

相談員（看護師や医療ソーシャルワーカー等）が、患者さんやご家族から質問や相談をお受けし、情報提供や問題の解決に向けて、一緒に考えていきます。

※個人の秘密は守り、相談されたことにより不利益が生じないように配慮します。

※相談は無料です。

受付時間

月～土曜日（祝日除く）

8:30～17:00

対応時間

月～金曜日（祝日除く）

8:30～17:00



場所

中央棟1階総合相談センター（総合案内隣）



患者さんからのご意見・ご要望

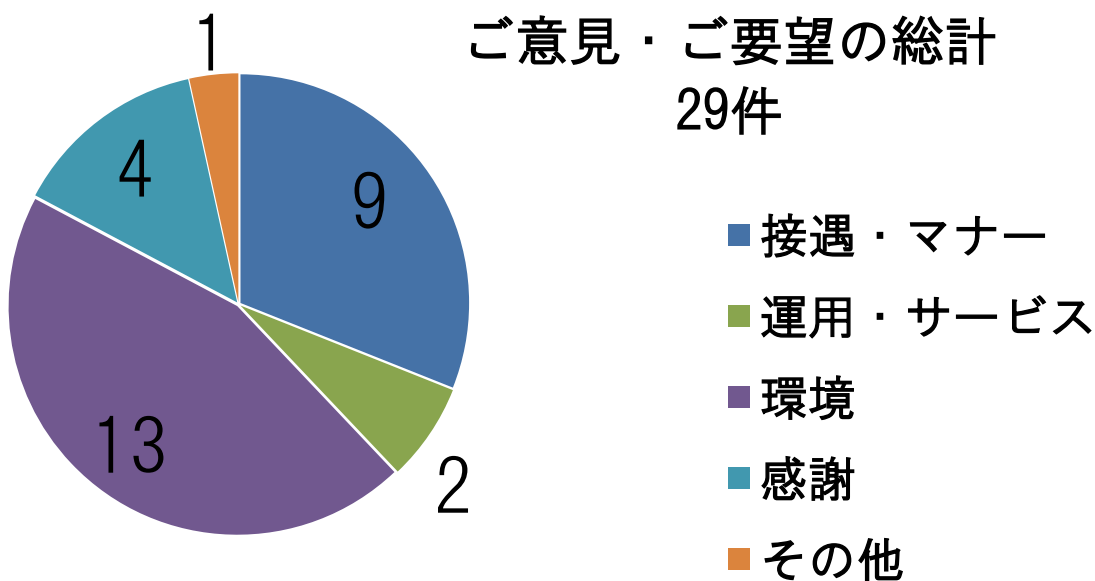
日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p><運用・サービスについて> 外出などで薬を持ち出す際、1、2種類の少量なら薬ケースは不要だと思います。</p> <p style="text-align: right;">他 1 件</p>	<p>現在、医療安全の観点から院内ルールとして統一したケースを使用しています。ケースについてのご意見を参考に、今後検討させていただきます。</p>
<p><環境について> 病棟の雑誌や本を増やしてほしい。</p> <p style="text-align: right;">他 12 件</p>	<p>感染予防の観点から、基本的に一般病棟には、配置していません。今回ご覧になったものは、退院していった患者さんが置いていたものと思います。一般病棟では、今後は廃棄処分を徹底します。図書等につきましては、院内図書ボランティアをご利用下さい。</p>

平成30年12月 ご意見・ご要望の総計 29件



診療統計

前年同月比 ()内は1日平均

診療実日数 2017年12月(入院:31日・外来:23日)、2018年12月(入院:31日・外来:23日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2017年12月	19,167人(618.3人)	27,807人(1,209.0人)	559件(18.6件)	687件(34.4件)
2018年12月	18,312人(590.7人)	26,495人(1,152.0人)	550件(18.3件)	708件(35.4件)

医師の配属・異動・退職

異動・退職医師

【退職】

・山田 良宣 (耳鼻咽喉科)

2019年1月31日付

キャンドルサービス開催報告

2018年12月19日(水)にキャンドルサービスを行いました。

当院職員が「きよしこの夜」や「もろびとこぞりて」などのクリスマスソングの合唱とともに、キャンドルに火を灯し、各病棟内を回りました。

入院中の患者さんやご家族に終始、クリスマスの雰囲気を楽しんでいただきました。



編集後記

2月は暦の上では春ですが、一年のうちで最も寒い季節でついつい背中も丸まってしまいます。近年はテレビやパソコン、スマートフォン、デスクワークなど猫背になりやすい生活習慣が増えているといわれています。猫背などの不適切な姿勢がつづくとう頭痛や顔のむくみ、耳鳴り、肩こり、腰痛の原因になったり、長期的には呼吸、胃腸などにも悪影響があります。ストレッチや正しい姿勢でのウォーキングがその予防になります。背筋を伸ばして前を向いて一直線に大腿に歩くことが良い歩行の仕方だそうです。

少し視線を上げて歩いていると木々の芽が膨らみ、暖かい春への準備が確実に進んでいることを感じることができるのではないのでしょうか。

視線を上げて前を向いて新年度の準備を始めましょう。

〈こどもセンター 准教授 曾我 恭司〉



北部病院だより 第128号

平成31年2月1日発行

発行責任者 門倉 光隆(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会委員長)

発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。